平成 24 年度　授業評価アンケートの概要

[Ⅰ]はじめに

平成 24 年 6 月 26 日（火）～平成 24 年 7 月 20 日（金）《前期》、平成 24 年 12 月 11 日（火）～平成 25 年 1 月 12 日（土）《後期》((但し半期科目は平成 24 年 10 月 30 日（火）～平成 24 年 11 月 12 日（月)) の 2 週間にわたって、授業改善を目的とした、学生による「授業評価アンケート」をほぼ全科目で実施しました（＊1)。ご協力ありがとうございました。以下では、原則として回答番号の「5（肯定的評価)」から「1（否定的評価)」までを点数とみなして合計し、回答者数で除した「平均点」を項目別に表示しました（＊2)。

①プレゼンテーション技術	01. 教員の言葉は全体として明瞭で聞き取りやすかったですか
	02. 板書やスライドなどの文字は見やすかったですか
	03. プリント・スライド・VTR 等の教材は、授業の理解を深めるのに役に立ちましたか
②授業の運営方法	04. 講義は講義細目の通りでしたか
	05. 教員は、私語について注意するなど受講環境の適切な確保をしましたか
	06. あなた自身にとって、各回の授業の量はどう感じられましたか
	07. あなた自身にとって、この授業のレベルはどう感じられましたか
	08. 教員の熱意は伝わりましたか
	09. 授業方法は、あなたの理解度や到達度に留意し工夫されていましたか
③受講態度の評価	12. あなたは予習・復習など、授業時間以外での学習をしましたか
④受講結果の評価	10. あなたは授業内容に触発されて、参考書を読むなどの学習意欲をかきたてられましたか
	11. あなたは授業内容をどの程度理解できたと思いますか　＋SQ 理由を問う副問
	13. 総合的に見て、この授業にどの程度満足しましたか　　＋SQ 理由を問う副問

＊1：匿名性の確保が困難な「履修登録者数が 5 名未満の科目」、結果の意味が曖昧な「複数教員の担当科目」は、原則として実施対象から除外しました。

＊2：問 04・問 06・問 07 は、回答番号が単純に肯定・否定を意味しないため、平均値としての表示はしていません。

[Ⅱ]検討結果

集計結果と自由記述は担当教員に配布しました。そのうえで、学科などで議論した結果、次のような対応策と要望が示されました。大学の授業は、教員と学生がともに新しい知識を求める熱意と努力を共有することで成り立ちます。教員も授業改善に努めますので、皆さんも提言を受け止めて、大学生として求められる受講態度をつくるように努めてください。

●総合教育センター

【センターの対応】

・センター会議で意見交換を実施

（１）授業改善に関して

①学生に「何を学ぶのか」を理解させるために、授業の冒頭に本日の内容と構成を説明するスタイルを取っている。

②市販のテキストをベースに、本学の学生の水準や特質を考慮に入れた独自の教材を使用している。

③学生が「わかった」と認識できる授業ならびにできたときにはほめる姿勢で臨んでいる。

④リアクションペーパーの活用（学生の質問等の機会、理解度の確認、授業への反映）

（２）授業評価アンケートについて

①現状の年２回前・後期というのは多すぎるのではないか（前後期の交代制、対象授業数の見直しなど)。

②パソコンや携帯電話を用いた方式への変更検討（これまでの実績、手間や経費の節減）

【学生への要望】

①予習・復習をしっかりしてほしい。

②学ぶ機会を大切にし、主体的に取り組んでほしい。

●生命環境学部

生命科学科

【学科の対応】

・授業の予習・復習について全体的に不足しており、この点をより一層指導する。特に今年度より、シラバスに各科目の予習と復習についての記述を行なったので、これをもとに指導することとする。

・予習・復習に必要な教科書、参考書の購入を促す。

【学生への要望】

・各講義における予習・復習を十分に行なって欲しい。

・特に、シラバスを熟読せずに講義に臨むものが散見されるので、シラバスをよく読み、講義内容、成績の付け方、予復習の仕方などについてしっかり理解することを望む。

自然環境学科

【学科等での対策】

・アンケート結果を学科内の全教員で検討し、特に各アンケート項目で良い評価を得た教員の創意工夫を紹介してもらい情報交換をはかることにより、学生にとって満足感が得られるよう授業改善を進めていく。

【学生への要望】

・実習や実験を通して培う実践的な知識と技術が本学科の大きな特徴のひとつであるが、講義による広範な基礎知識の習得があってはじめてそれらが習得できる。講義にはしっかり出席し、不明な点は定期試験前に各教員に質問し、自宅での学習も怠りなくやって欲しい。

アニマルサイエンス学科

【学科の対応】

前期：アンケート結果から読み取れることを教員間でシェアし、授業の改善の参考としました。例：受講環境を良くする努力（私語の注意など）をすると評価が向上する例が示された。

後期：アンケート結果から読み取れることを教員間でシェアし、授業の改善の参考としました。例：学問の面白さを伝えるための工夫をしたことで評価が向上する例が示された。授業改善の効果を知るために教員による授業参観を併用している（同一教員が２期にわたって参観し、コメントする）例が示された。

【学生への要望】

前期：アンケートの目的と意義を十分に理解して、授業改善のためにアンケートを活用してください。

後期：具体的な進言は授業改善のポイントを知る上で有益なので、自由記述欄も活用してください。

●医療科学部

理学療法学科

【学科の対応】

前期：・教室の形状・スペースなどによる問題に対しては、実習や演習授業をグループに分け行う方法や複数の教員で授業にあたるなどの方法をとり対応する。
・小テストや課題レポートなどが実施できる授業では積極的に実施し、授業以外でも助言教が関わるようにして学習の支援を行う。また、小グループ制によるグループワークを中心とした授業を展開し、多数の教員によるオムニバス授業を増やすなどして多面的に学生を評価する。

後期：・教室の形状・スペースなどによる問題に対しては、実習や演習授業をグループに分け行う方法や複数の教員で授業にあたるなどの方法をとり対応する。
・小テストや課題レポートなどが実施できる授業では積極的に実施し、授業以外でも助言教員が関わるようにして学習の支援を行う。また、小グループ制によるグループワークを中心とした授業を展開し、多数の教員によるオムニバス授業を増やすなどして多面的に学生を評価する。

【学生への要望】

前期：・課題レポートなど提出物の期限は厳守すること。
・到達目標を確認したうえで、興味がある分野には積極的に取り組んでほしい。また、理解度の低い授業を放置せず、担当教員との関わりを積極的に構築する姿勢を作ってほしい。

後期：・課題レポートなど提出物の期限は厳守すること。
・到達目標を確認したうえで、興味がある分野には積極的に取り組んでほしい。また、理解度の低い授業を放置せず、担当教員との関わりを積極的に構築する姿勢を作ってほしい。

作業療法学科

【学科の対応】

・学生が授業のレベルが高いと感じ、これに応じて理解度も高いとはいえないが、それにもかかわらず、授業以外の学習は高くはない。授業以外での学習を促す方法を、考えていく。
・国家試験内容・レベルを重視し、適宜、国家試験内容・レベルを学生へ伝えていく。

【学生への要望】

・理解が十分ではないと感じたら、オフィスアワーなどを使って、積極的に質問してほしい。
・シラバスを確認し、予習復習を必ず行って下さい。
・遅刻は厳禁です。

柔道整復学科

【学科の対応】

前期：・授業評価アンケート結果から学科で評価の分析を行う
・国家試験情報を教員相互で情報交換し適宜学生に伝えていく。
・すぐれた教科書や教材について教員相互で情報交換し学科で検討する。
・授業方法について教員間で意見交換を積極的に行う。
教員の熱意が感じられる授業を展開し、特に重要項目を黒板に記載しノートにとらせ理解度を向上させる。理解できていないと思われたらわかりやすい授業を心掛け予習・復習を促す。
・担当科目の評価が低い教員の改善点を助言教員を通じて学科に上げるシステムを作る。

後期：・教員相互の授業参観や授業方法の評価等積極的に取り入れる。
・授業中の学生の私語や受講態度等受講環境について教員間で話し合う。
・すぐれた教材や、授業方法について教員間で情報交換し学科で検討する。
・国家試験情報を適宜学生に伝える。
教員間で学生の情報を共有し、授業では予習・復習を学生へ促し理解できないと思われたらわかりやすい授業を心掛け授業方法に工夫を考え、学生の喚起を考えた授業を進めるように改善を図る。

【学生への要望】

前期：・授業内容が理解できない場合、質問できる環境を整え学生に周知徹底し質問できるよう学生に要請する。
・課題の提出期限を厳守する。
授業への出席が大切であることを認識し、授業中は私語等他人に迷惑をかけないことを守り、授業で理解できない時は積極的に質問ができるようにして、学ぶ意欲や勉強の楽しさを知り主体的に学習する。
る態度を身につける。

後期：・シラバスを読むように促し、シラバスとかなり異なっている場合に助言教員に改善を図るよう要請する。
・課題アンケート等の提出期限を厳守する。
・予習、復習を行い理解度の低い授業を放置しない。
授業への出席が大切であり医療専門職になるという意識を持ち、授業中は私語や居眠り等や他人に迷惑をかけないことを守り、授業で理解できない時は積極的に質問ができるようにし、予習・復習の習慣を身に着け主体的に学習する態度を身につける。

東京理学療法学科

【学科の対応】

前期：・本学科を含む医療科学部は他学部他学科と比較して全体的に授業以外の学習時間が多いという良い特徴が伺えた。今後も授業開始時に前回の履修内容についての小テストの実施、レポート課題の提出に加え授業内で学生に発表してもらう、等の自宅学習を促す工夫を行う。

・学生のアンケートに向かう姿勢から、結果を全面的に講義内容に反映させるのは適切ではないと考えられるが、これらの結果をさらなる講義内容の改善意見として活用する。

・個人担当の授業評価については、評価された授業を担当する個々の教員の良識で判断・対処すべきものであることから、学科として、個々に判断・対処してもらうように申し合わせを行う。

・学外の教員（非常勤講師）が担当している授業についは、数回の評価の後、持続的に評価の低い項目があれば、学科として、それに関して何らかの対応をお願いすることは効果が期待される。

後期：・現在のマークシートによるシステムでは、授業の終了数回前に行うだけであり、経費もかかり、かつその教員へのフィードバックは次全ての授業終了後となり、授業期間中にそのアンケートを活かすことができない。本学科では教育特別推進研究費で導入したクリッカーを用い、各科目内でクリッカーを用いた授業評価アンケートを独自に行うことで、その評価を即時に教員側にフィードバックして授業改善につなげる試みを検討したい。

・専門科目について「授業にどんな不満を持っているか」「どういった狙いで授業をしているか」「授業のどが難しいか」「何気ない授業にどんな工夫が隠れているか」といったように、学生と先生方のお互いの意見交換を円滑にするため、授業の良い点、改善が望ましい点などについて学生の視点から意見を求める体制・システムづくりを学生とともに検討する。

【学生への要望】

前期：・遅刻・欠席・居眠りは本人が不利益を被るのに対して、私語、立ち歩き、飲食などの他の受講生が授業を聴講する上で妨げになるような態度を慎むなど、授業を受ける上で守るべきマナーを自覚し、身につけてほしい。

・授業の予習・復習を必ず励行してほしい。

・「授業の満足度」について、単に自らの興味が満たされたかどうか、あるいは単にむずかしいからいやだ、簡単だから好きだ、などというややもすれば恣意的あるいは主観的観点ではなく、大学の教科として該当科目の授業のあるべき姿にどれだけ近いかという客観的観点を重視してもらいたい。そして、アンケートに参加するにあたっては、評価する学生の側にも真摯に学問と向き合い、大学で学ぶとはどういうことであるかということについて自ら考えを深めておくことを求められていることを意識してもらいたい。

・必ずシラバスに目を通すこと。シラバスを熟読した者以外、アンケートで「シラバスとの一致」の項目には答えないこと。

後期：・上記の学生 FD スタッフ制度のように、学生側から授業改善のための取組を提案してほしい。もちろん、そのための制度づくりは学科教員側が全面的にサポートしていきたい。

・アンケートや学生 FD スタッフなどのシステムによらずとも、授業改善のための要望や履修しやすい科目やその授業方法についての情報を積極的に教員側に寄せてほしい。

・授業の予習、復習が不十分であるため、必ず励行してほしい。

東京柔道整復学科

【学科の対応】

前期：・講義における指定席導入して，常に名前の確認が出来る環境を作る．

・私語の多い学生を特定の席に指定する．

・実習では男女別クラスクラス編制を検討する．

・成績不良学生の学力向上のために補講を実施する．

後期：・退学，休学を検討している学生には積極的に助言教員が対応する．

・座席指定には成績を考慮する．

【学生への要望】
前期：・クラスをまとめるクラス会長を選任して下さい.
・クラスの雰囲気が明るくなるように努めて下さい.
・教員が講義の理解度，達成度を適宜把握するために，講義内容について積極的に質問して下さい.
・授業評価アンケートには，自由記述欄に授業に対する具体的要望と反省を明記して下さい.
・国家資格修得のための学科であることを認識し学業に専念してほしい.
・一般常識を心得て欲しい.
・私語を慎んでほしい．教員が注意しても慎まない場合，クラスで当該学生を追い出してください.

後期：・予習，復習を実践して下さい.

<u>看護学科</u>
【学科の対応】
前期：・学生の学習力を高めるために、科目間の連携、教材の工夫に努める。
・外部講師と連携し、学習効果を高める。

後期：・学生の学習力を高めるために、科目間の連携、教材の工夫を行う。
・学生からの問題提起や要望（ディスプレイの文字が見えずらいなど）を把握し、改善に努める。

【学生への要望】
前期：・学習の習慣を自ら身につけるように自己学習の時間をつくる。
・予習、復習を徹底する。
・図書館を利用し、シラバスに記載されている参考図書を積極的に活用する。

後期：・自分の目標を明確にして、学習に臨む。
・講義中の態度（おしゃべり、居眠り、講義中に教室から出るなど）を改める。
・課題レポートなどの提出物の時間厳守に努める。
・理解できなかった講義をそのままにしない。

●こども学部

<u>こども学科</u>
【学科の対応】
・資格取得に対応するため、1-2 年生で取得する科目が多いため、特定の学年に負担が集中する。科目配分を可能な限り、3 年生に移動するような検討を加える。
・「授業の行い方などに対してネガティブ」な学生を授業の中で気づき、そういった学生の思いに耳を傾けられるようにする。
・授業以外の学習については、教科書を指定するなど、学生がより予習・復習しやすいように工夫する必要がある。
・関連度の高い他の授業の学習内容を相互に把握していくことが今後の課題と思われたので、授業見学するなどして、他科目との連携を深めていく。
・さらに本学科は保育者養成課程として極めて望ましい、保育現場に一年次から出るというプログラムが用意されているので、そのフィールドワークに可能な限り参加して、学生の保育・幼児教育現場体験にも寄り添った授業になるように取り組みたい。

【学生への要望】
・教室に来て話を聞くだけではなく、学んだことを自分の生活のなかで検討して疑問をみつけ、問いを深めるような学習姿勢を持ってほしい。
・受講態度を改めてほしい。

児童教育学科

【学科の対応】

前期：・学科内で各教員が行っている工夫や改善点について話し合う必要がある。例えば、遅刻をなくすように指導する、授業中の関連のない私語をしないように指導するなど。
・授業以外の学習が極めて低いので改善が必要である。シラバスに予習・復習を記載することでどの程度改善されるのか、その効果を見極めたい。そのためには、予習復習をしているかどうかをチェックし、指導につなげる必要があるのではないか。各教員がどのような工夫でチェックされているかを話し合い共有したいところである。
・学生の居眠りについて、学科としての考え方や対応を考えたい（居眠りなら OK という授業もあり得る)。
・講義内容について教員自身も自己チェックする必要がある。例えば、授業科目名と授業内容が異なることのないようにする、講義の基本として対面 15 回の授業を重視するなど。

後期：・文章を書かせる機会を増やすなど、学生の力をつけるために教員間で共通して取り組めることを話し合い実行する。
・大学生としての心得を守れない学生への対応を考えたい。例えば、遅刻をなくすように指導する、授業中の関連のない私語をしないように指導するなど。
・心得を守れない学生への対応および対策を検討したい。(互いの苦肉の策を共有したい)
・我々教員も大学人としての自覚を持って、学術的な内容で授業をするようにしたい。学生の学修意欲に応じる授業の在り方を検討・研究したい。

【学生への要望】

前期：・授業を受ける基本的態度を身につけたうえで受講してほしい。例えば、授業中にしゃべらない（私語をしない)、居眠りをしない、遅刻をしないなど。
・予習・復習をきちんとすること。
・シラバスに目を通してほしい（教員もどこかの時点でその再指導が必要)。
・学修の意味を理解してほしい。座っていればよい、出席すれば単位がとれると安易に思わないで欲しい。

後期：・自ら予習および復習をして、授業に臨んでほしい。
・授業に積極的に参加し、主体性を持った学びと思考力のある学びをしてほしい。
・遅刻をしない。授業中に関係のない私語をしない。予習復習をきちんとする。
・大学生として、自分で勉強する機会を増やしてほしい。予習、復習の他に読書、美術、音楽鑑賞など教養を深める学びをしてほしい。

・出席数が足りないのをレポートで勘弁して欲しいという学生がいる。きちんと出席し、授業内容が理解出来て、初めて単位が取得できるという大原則を守って欲しい。

今年度も「授業評価アンケート」を実施しますので、ご協力お願いします。